

2011 Report from **FD** Salon of RUCED
11-2

龍谷大学 FDサロンレポート

日本私立大学連盟主催
「平成23年度FD推進ワークショップ
(新任専任教員向け)」参加報告会

報告者：長谷川 岳史 (大学教育開発センター長)
岡本 健資 (政策学部)

日時：2011年10月20日(木) 16:45～18:15

会場：深草学舎紫英館2階 第2共同研究室

対象：本学教育職員(特任・非常勤講師含む)

今年の8月に、就任4年目までの教員を対象とし、浜松グランドホテルにて開催された日本私立大学連盟主催「平成23年度FD推進ワークショップ」(テーマ：『大学教員の職能開発とFD』)の参加報告会として、運営委員を務めた経営学部の長谷川岳史先生と、研修に参加した政策学部の岡本健資先生に当日の研修内容をお話いただきました。

長谷川：お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。2011年度第2回FDサロンを開催させていただきます。

私立大学連盟の事業として、FD推進ワークショップというのがございまして、私が5年前ぐらいから運営に関わっています。本日は私が運営側の立場からどのような研修なのか全体像を説明させていただき、参加いただいた政策学部の岡本健資先生に、研修を終えてのご感想等を報告いただきたいと思います。

私立大学連盟のFD事業としては事務職員と専任教員の合同ワークショップ、新任教員向けのワークショップの2種類が開催されており、岡本先生が参加したのは後者です。1泊2日の研修で、主に模擬授業に的を絞ってやっております。

なぜこれをFDサロンのテーマにしたかという、実はどの大学もそうなのですがこのようなワークショップ研修に参加した先生は、大学に帰ってきても成果を還元する場所

がないという問題があるからです。教授会等で報告している大学もありますが、なかなか広がっていかないということ

があります。是非貴重な経験を本学に還元いただきたいということで、今回お願いいたしました。

まず長谷川の方から配布資料に基づいて簡単に説明させていただきます。私大連のFD推進ワークショップの運営は教育研究委員会の下で運営委員会が行っており、私は現在その委員を務めています。

本研修について、本学の場合は参加費、宿泊費を大学が負担しています。組織的に派遣する大学もありますが、本学の場合は公募、個別にお誘いする等の方法で参加いただいています。

研修の内容については、1日目は、プログラムの全体説明、前年度の研修に参加した方に、感想、成果等を話してもらうパネルディスカッション、グループ討議、授業概要の作成という流れで進んでいきます。

例えば授業概要を作成するプログラムは、



カリキュラムポリシーを意識しながら、カリキュラムに応じて目標を立て、教育実習で作るような授業案を作成するという内容です。



2日目は、だいたい1グループを7人ぐらいに分け、15分間の模擬授業をしていただきます。模擬授業では、指導案を基に実際に授業をしていただきます。使えるのはホワイトボード1枚、配布するのは授業概要のみで、パワーポイントもパソコンも使えません。裸一貫になって授業の原点に戻ってもらうというコンセプトです。

一人一人に対しコメントを記入し本人にフィードバックしていきますが、否定的な意見ではなくあくまで発展的な意見を出していきますので、コメントシートを宝物のように大事にされている方もいます。

その後、前日のディスカッションの内容と模擬授業をグループ単位で振り返っていただき、参加者全員の前でグループ代表が発表し、質疑応答という流れでワークショップが終了します。

この研修の特色としては、同じ分野の人が集まるのではなく、全く異なる分野の人も同じグループになること、また、模擬授業を学生の立場で聞くという新鮮さや、自身で悩んでいた点について発展的な意見交換がなされることです。

課題としては、大学に帰った後、どのように成果が大学に還元されているかということです。

私の方からは運営について述べさせていただきました。続いて、参加者の立場から岡本先生にご説明いただきます。

岡本：それでは参加者として感想をお話しします。

振り返ってみますとこのワークショップのプログラムはシンプルですがよく考えられていたと思います。

良い点の1点目は、模擬授業についてです。2日目に参加者が行う15分間の模擬授業の指導案を、初日の夜の一時間半程度で仕上げるといったハードなスケジュールでした。それを終わらせないと懇親会には出席できないと

いう長谷川先生の冗談で会場は和やかな雰囲気になりましたが、プログラム上もそうなっていました。制限時間内での指導案の立案を通して、自分の最も得意な授業スタイルを模索するという良い経験ができました。

もう1つの良い点は、様々な大学、様々な分野の先生方との交流です。自分の分野とは違う先生たちとグループを組んで意見を言い合うということはなかなかないので良い学びが得られたと思います。

ワークショップの多様なプログラムは初対面の私たち参加者に多くの話題を提供してくれ、盛んな情報交換が交わされました。食事時や休憩時もグループ内ではずっと会話が続きまして、このように2日間という長い時間をかけた授業の工夫に関する集中的な語り合いの場というものは経験がなく、とても良い刺激を受けました。

大変楽しいワークショップでございました。お誘いいただきありがとうございました。

参加者A：ありがとうございました。先生のご報告を聞いて実感したのが、意外と先生方がこのような研修を受ける機会がないことです。中堅やベテランの先生にもこのようにお互いの教育について率直に意見交換できる機会があれば良いなと感じました。

参加者B：前任校では全学的にFDを推進していて新任教員研修もありましたし、各キャンパスの学科等の単位で、例えばある授業のシラバスを書いてみようとか、ワークショップ等の活動をやっていました。年齢の差が場合によりありますが、上下関係はあまり意識せず、フランクに話し合っていて決めていく雰囲気がありました。

長谷川：実は全国のいろんな大学の先生も同じ悩みを抱えているんだということを感じていただくことがこの研修の狙いの一つです。

もう一つ運営側の狙いとしては、参加してくださった先生を中心に、FDの輪を広げていくことです。他にもいろいろな研修がありますので、学外の研修と本学のFDをうまく構成しながら研修の一つの形ができればと考えています。



平成 23 年度 FD 推進ワークショップ（新任専任教員向け）
～大学教員の機能開発と FD～

日 程 表

A日程：平成23年8月8日～9日
B日程：平成23年8月10日～11日
会 場：グランドホテル浜松

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|--|----|----|----------------|--|--------|--------------------------|--|--|---|-----------------------|------------------------------------|----------------------------|------------------------------------|---------------------|
| | 6:30 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20:30 | | | |
| [1日目] | | | | | | 受付 | 開 会 | 全 体 説 明 (30) | 休 憩 | パ ネ ル・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (90) | 模 擬 授 業 ワ ー ク シ ョ ッ プ 説 明 (30) | 移 動 ・ 休 憩 | グ ル ー プ 討 議 (80) | チ ェ ッ ク イ ン | 授 業 概 要 作 成 (80) | 懇 親 会 (90) |
| [2日目] | 6:30 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20:30 | | | |
| | 朝食 | 模 擬 授 業 ワ ー ク シ ョ ッ プ (180) | | | 昼 食 (60) | 模 擬 授 業 ワ ー ク シ ョ ッ プ (120) | | 移 動 ・ 休 憩 | 全 体 ふ り か え り ・ 閉 会 (75) | | | | | | | |

大学教育開発センターNews No.2011-15
2011

第2回 FDサロンのご案内

日本私立大学連盟主催
「平成23年度FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)」
参加報告会開催のご案内

報 告 者： 長谷川 岳史 (大学教育開発センター長)
岡本 健資 (政策学部)
日 時： 2011年10月20日(木) 16:45～18:15
会 場： 深草学会紫英館2階 第2共同研究室
対 象： 本学教育職員(特任・非常勤講師含む)・
事務職員
申込方法： 教学企画部(内線:1050 mail:doho@ed.ryukoku.ac.jp)
まで、電話またはメールにてお申し込み下さい。

【概要】
今年の8月に、就任4年目までの教員を対象とし浜松グランドホテルにて開催されました日本私立大学連盟主催「平成23年度FD推進ワークショップ」(テーマ:「大学教員の機能開発とFD」)の参加報告会を開催いたします。運営委員を務めた経営学部の長谷川岳史先生と、研修に参加した政策学部の岡本健資先生に当日の研修内容をお話いただきます。

～参考～
研修テーマ:「大学教員の機能開発とFD」
プログラムの目録

加盟大学の新任専任教員を対象にして、担当正課科目の不断の点検と改善だけでなく、大学教員の職能開発という包括的見地から、FDに関する見識ある実践的指導を参加者全員で共有する機会を提供します。また、参加者同士で意見交換できる場を提供しながら、大学教員の職業的規範を明確にするとともに、担当正課科目の授業改善を目的としています。

主催：大学教育開発センター

発行：大学教育開発センター
連絡先：内線1052
発行日：2011年10月7日

当日配布資料

ワークショップ参加の意義

龍谷大学政策学部

岡本健資

私にとって、このワークショップへの参加は有意義であった。さまざまな経験を持った参加者から得る「授業時の工夫に関する情報」が大変に貴重なものだったからである。この「授業時の工夫に関する情報」を得てきたのは、このワークショップが「多様なプログラム」と「模擬授業」、そして「異分野から成るグループ」という、三つの仕組みを準備したことに依ると考える。

このワークショップにおける「多様なプログラム」は、互いに初対面の私たち参加者に多くの話題を提供してくれた。例えば、初日のパネルディスカッションや「昨年度参加者による実例報告」は、「授業時の工夫」に関する成功例だけでなく失敗例をも披露し、アイスブレイキングの役割を果たしつつ、参加者同士の会話

を発生させた。結果、「グループ討議」や懇親会での会話の温度を上げ、盛んな情報交換を促した。このように、「多様なプログラム」がさまざまな話題を提供してくれたことで、食事時や休憩時にも、「授業時の工夫に関する情報」の交換が行われつづけ、私もその恩恵にあずかった。また、これまで、2日間という時間をかけて「授業時の工夫に関する情報」を集中的に語り合う場は経験が無く、有益な情報が多く得られた貴重な場であった。

主要プログラムの中で、私にとって意義が大きかったのは「模擬授業」であった。各参加者が保持するさまざまな「授業時の工夫」については、既述の通り、口頭でのやりとりを通して学ぶ機会が多かったが、「模擬授業」という体験形式での学びが、口頭で得た知識の一層の定着を導いた。15分間の授業実演とグループメンバーから受けた評価は、自身の日頃気づかなかった点に目を向ける契機となった。模擬授業に先立って提出した指導案（模擬授業ワークシート）作成も、15分という短時間中に伝えられる内容を考える機会を与えてくれた。また、指導案を制限時間内に作成することが、自分の最も「得意な」あるいは「日常的な」授業スタイルを探す機会となった。

最後に、今回のワークショップ参加の意義として、「異分野から成るグループ」に参加できたことを挙げたい。分野を異にする参加者の授業は、内容的にはもちろん形式的にも異なる点が多く、学ぶべき点を多く含んでいた。異分野の授業を受けることを通して、自らの分野の授業の特性が浮き彫りとなり、改善点を見出すことが少なくなかった。もちろん、他の参加者の洗練された授業を見ることで、自分のいたらなさを再確認できたことは言うまでもない。

他にも多くを学んだが、すべてを記すことは不可能である。学んだところは一つずつ教育実践に反映し、試行錯誤しながらよりよき授業を目指していきたい。

【多様なプログラム】の事例：

◆「昨年度参加者による事例報告」（三人の先生）

《A先生のポイント》配布情報量の多さがそのまま「学ぶ量」ではない。

☆学生側の能力や意欲についての情報をアンケート。回収後、授業に反映。

☆アンケート内容：難易度・進度・板書の文字大きさ・パワポ分量。

☆授業開始時に授業内容に関連する雑談（特に失敗談）をし、興味を喚起する。

☆授業1日あたりパワポ18枚50~60pointを使用。講義後Web公開。

☆適度の休憩（開始後1時間位で雑談）を入れる。

☆授業最後に小テスト。

《B先生のポイント》学生と自分との教室内での位置関係。

☆学生に作らせた座席表（毎回変える）を採用。

☆立ち位置は教壇にいる時間を少なくし、常に学生の間に居る。

☆書かせる→話させる→発表させるというプロセスが大切。

《C先生のポイント》学生とのつながりが大切。

☆初回到授業スタイルを説明。

☆パワポのフォントは最低32point。

☆45分×2ブロックという授業構成が効果的。

☆学生への質問や注意は名指しで。名前が無理でも個人を指定して行う。

☆終了15分前には、学生の人生とリンクした簡単な質問（国家試験など）を。

◆「グループ討議」（着任前の職業などの自己紹介と専門分野・現在の研究、各自が抱える課題や問題点）。

◆「模擬授業」（回覧資料）

◆「全体ふりかえり」（「いかにして授業の質を高めるか」というテーマ）

☆学生との対話を増やすことが大切。

☆学生の顔・名前を把握→効果：集中力・緊張感・理解度確認・参加意識の醸成。

☆学生に自己との対話をさせる。講義初回と最終回に同じテーマの小レポートを書かせ、二つを併せて返却し、講義に於いて獲得できた知識を確認させる。

FD サロンレポートとは

大学教育開発センターでは、教職員間の交流の場として、各種の教育活動の経験や意見が話し合えるように「FDサロン」を2002年10月から開催しています。

大学教育開発センターの運営に関わる教職員が、話題提供者をコーディネートし運営されています。話題提供者のお話に耳を傾け、お茶でも飲みながら自由に意見交換等が行える機会として定着してきました。しかし、開催時間や開催場所の問題から、参加ができないとの声も聞かれます。そのようなことから、FDサロンでの話題をもっと全学に環流させ、FDの取り組みを深めていくためにFDサロンレポートを発行することといたしました。

FD サロンレポート 11-2

発行日：2012年3月

発行：龍谷大学 大学教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

TEL. 075-645-2163 FAX. 075-645-2190

<http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>